



民主 苦小牧号外
2026年
8.9・16合併号
No.1152

日本共産党市議会議員 ✨Peace✨

小野寺ゆきえです！

“恐怖”ではなく“安心”を

今日は戦争に係わる絵本のお話しをしたいと思います。
大門みきし参議院議員の著書で紹介されている絵本
『世界で1番の贈りもの』は、第1次世界大戦のクリスマス
の朝の実話を絵本にしたものです。1人のドイツ兵が白旗を
降りながらイギリス軍の塹壕に近づいて行き、「クリスマスお・め・で・と！」と声をかけます。少ししてイギリス軍も「メリークリスマス！」と応えます。せめてクリスマスくらいはと、イギリス軍とドイツ軍の兵士たちはソーセージを食べ、お酒を酌み交わします。そのうち誰かがサッカーボールを持ち出して試合が始まります。ドイツ兵が「この戦争を終わらせる方法がわかったよ。サッカーの試合で勝負を決めればいい。サッカーなら誰も死なずにすむ」と言います。

しかし、クリスマス休戦のあと戦闘状態に入り、多くの兵士が命を落とします。

しんぶん赤旗で紹介していた『せかいで いちばん つよい国』という絵本は、大国が世界中を征服する話です。最後に攻めたのは兵隊のいない小さな国でした。兵隊がいないので戦争になりません。小さな国は大国を歓迎し、おしゃべりをしたり、歌をうたったり、仕事を手伝ってもらったりします。戦争にならない征服を終えて、兵士たちが自国に帰ると、各家庭から小さな国の料理の香りがします。小さな国の服を着ている人もいます。大統領は「まあいいさ、どれもこれも戦争でぶんどってきた物だからな」とニヤリとしますが、大統領が子どもに聞かせた歌は、どれも小さな国の歌だったのです。

「日本を守るためには防衛費を増やすことはやむを得ない」という方は少なくないと思います。でも、この絵本のように兵隊がいなければ、攻められても戦争にならないかもしれません。兵士だって、サッカーの試合で終わらせたいと思っているのかもしれませんが。国のトップが戦争をしたがっているだけではないでしょうか。

1950年に提唱された“安全保障のジレンマ”という言葉があります。自分の安全を守るために軍隊を強くする様子を見ていた他国が、「自分が攻撃されるのではないか」と不安になり軍隊を強くし、結果的にどちらの国も安全でなくなり、戦争の危険が高まることをいいます。つまり「平和をつくる道」は、“恐怖”を与えるのではなく、“安心”を与えることではないでしょうか。